黒岩ヒストリー（第十一話）

大学篇 -その4-



過去に通信本編で触れましたが、私は大学入学直後から当時の防衛庁長官加藤紘一衆議院議員の事務所に通う事となります。加藤先生が私の母の高校時代の同級生であった事。そして、私が上京後に訪れてみたいと考えていた田中角栄元総理が大学入学の2カ月前に脳梗塞に。残念がっていた私に母が加藤事務所を紹介してくれた事が理由です。

加藤先生の「防衛庁長官就任パーティー」を目前に控えていた事もあり、即通勤定期を与えられ毎日加藤事務所へ。様々な雑用をこなしていましたが、最も嬉しい仕事は政治資金パーティーへの代理出席です。何せ乾杯と同時にぞろぞろ退席する慣れた招待客とは違い、私ら学生が食べる事ができない御馳走をお腹いっぱい食べられるのですから。

また、何故か自治省（現総務省）への政治資金報告書提出は決まって私が行かされました。行く度に訂正を求められ何度往復した事か。今思えば担当者に何を聞かれても中身の全く分からない若造が、首をかしげながら何往復もする方が都合が良かったのかも知れません。

当時の加藤事務所は30代前半の秘書が責任者で秘書計5人。アルバイト女性1人に我々学生書生が2人の計8名。今の議員会館事務所の半分の広さにこの人数ですからぎゅうぎゅう詰めでした。事務所生活がスタートして初めて責任者の秘書に私たち書生二人が赤坂に食事に連れて行ってもらった時の事。夕食は何とも豪勢なしゃぶしゃぶ。生まれて初めてのしゃぶしゃぶです。

二次会はカラオケラウンジ。元々音程が不安定な家系に生まれた私ですが、カラオケが初体験に加えこの1年間は受験勉強に没頭し流行りの歌も知りません。嫌がる私でしたがかなり無理やり司会者にステージ上に連行され、入れた歌は今もって不思議ですが中森明菜の「少女A」。歌えるはずもなく、2番到達前に司会者にステージから引きずり下ろされるはめに。一緒に行った大学4年生の書生が中村雅俊の「恋人も濡れる街角」を歌いこなす姿をただ恨めしく眺めるだけでした。

カラオケ店で驚いたのは、その店が元宝塚トップスターの店だった事でもなく、プロの司会者がいた事でもなく、何と言っても30そこそこの秘書が店中から「先生」と呼ばれていた事です。永田町ならではの常識、ヒエラルキーのピラミッドを垣間見る思いでした。閉店時に宝塚元トップスターと黒塗りの車に乗り込む直属の上司を腰90度で恭しく見送った事を覚えています。念の為に申し上げておきますが、加藤先生も加藤事務所も自民党内ではずば抜けて清廉であった事は間違いありません。当時の永田町は世間に先駆けバブルの坂を上り始めていたようです。



加藤紘一衆議院議員 自宅リビング

LINE 公式アカウント始めました
友だち登録お願いします
黒岩たかひろに関する情報が自動で届きます。
是非、仲間になってください。

国会事務所が決まりました！
〒100-8981 東京都千代田区永田町 2-2-1
衆議院第一議員会館 811 号室
Tel：03-3508-7247　Fax：03-3508-3517

「黒岩たかひろ応援団」に是非ご入会を！

「黒岩たかひろ応援団」は黒岩たかひろの更なる飛躍を期し、会員一人ひとりがその政治活動をサポートすることを目的としております。皆様から頂いた会費は、会報の発行を含む政治活動に活用させていただいております。また、応援団ご入会の方には優先的に地域で行われる集会、座談会のご案内をさせていただいております。今後、より充実した活動を行うためにも多くの方のご入会をお待ちしております。

【年 会 費】 年額1口 5,000 円より
【お振込先】 郵便局：口座番号　00550-4-74787　口座名「黒岩宇洋と歩む会」
銀　行：第四北越銀行　新発田中央支店　口座番号（普）2104899　口座名「黒岩たかひろと歩む会」

会費納入にあたっての注意事項
1. 外国人からの政治活動に関する寄付を受け取る事はできません。
2. 本人以外の名義または匿名により政治活動に関する寄付をすることはできません。

黒岩政通信 まつりごと

2025年8月5日 発行 号外
立憲民主 RIKKEN MINSHU
新潟3区版

立憲民主党 立憲民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町 1-11-1
三宅坂ビル7F
Tel.03-3595-9988
Fax.03-3595-9088

編集 新潟3区総支部
黒岩宇洋事務所
〒957-0053
新発田市中央町 2-4-21
Tel.　0254-21-0700
Fax.　0254-21-0707

第31号
2025年8月5日発行



2025年7月20日、バンザイシーン

新潟勝利 -3区111票差の勝利-

残暑は続くよどこまでも

残暑お見舞い申し上げます。

まずもって新潟の大事な大事な一議席を守る勝利に対しご支援を頂き、心より敬意を申し上げます。暑い暑い参院選は新潟勝利で終えましたが、政治の暑い季節は夏から秋へとまだまだ続きます。皆さん、ご自愛しながらこの熱さにしっかりとお付き合い下さい。よろしくお願いします。

7月20日午後10時18分、打越さくら当確のランプがテレビ画面に急遽浮かび上がった。その画面を見入っていた我々が、見守り会場のホテル宴会場ステージに上がり、当選者の来場を待つ。しばしかたずを飲んだ後に打越さんが満面の笑みを浮かべ両手を振りながら会場に現れた。水内選対本部長の音頭のもとバンザイ三唱。ステージ上の面々は皆相好を崩した。

ここまではあっという間の出来事。むしろやけに長く感じたのが、この後だった。帰りの車の中、スマホで県内の開票状況を追う。いつまで経っても僅差のトップ争い。市町村ごとでも勝ったり負けたりを繰り返す。県内全体は勿論だが、自らの新潟3区の勝敗も大いに気になるところ。漸く100%確定票が出たのは万歳から1時間以上経ってからで、全体で約1万票の薄氷を踏む勝利であった。新潟3区は髪の毛1本差、111票差で何とか勝利をモノにした。

参院選全体では与党の歴史的大敗であることは間違いない。ただ、新潟の結果に見られる様に自民党の最後の粘りは全国的なもので、与党で獲得した47議席という数字は今後の微妙な政局に大きな影響を及ぼす事になるはず。参政党、国民民主党の躍進、立憲民主党の現状維持、その他多くの既成政党の退潮、全てが絡み合って今後の政局がうごめいていく。熱い政治の夏から熱い政治の秋へとバトンが渡された。政権が著しく不安定になり、よって著しく痺れる政治的局面になだれこむ事となる。

衆議院議員
黒岩宇洋（たかひろ）

参院選の結果・今後の政局

薄氷の勝利
- 参院選の舞台裏 -



打越さくら候補の応援に、３度野田代表が入りました。

5月12日の朝、突然大串博志立憲民主党選対委員長からの電話が鳴った。大串さんは党選対委員長代理を務める私の上司であると同時に盟友である。「打越さくらさんの党世論調査結果が余りにも悪い。新潟県内国会議員を全員集めて欲しい。」大串さんは簡潔に私に告げた。

5月14日、議員会館内会議室に大串委員長、私、打越さん本人を含む県内国会議員全員が集まった。先ずは大串委員長から全国1人区の立憲候補者のうち現職は勿論、新人を含め打越さんの数字が圧倒的に悪いとの情勢報告。次に現在の選挙準備状況を米山隆一打越選対幹事長から報告。選対が体をなしておらず何もかもが遅れている事が判明する。そして私から各小選挙区の準備状況の遅れも指摘。他の議員から憎まれ役となるが、仕方ない。新潟県の参院選は常に各小選挙区の競い合いが最大のエネルギーとなってきた。そして切り出した私は当然結果を出さねばならない立場となる。

6月20日の事実上の国会閉会を受け、翌21日の午前中、打越総合選対会議、午後、打越新潟3区選対会議から1か月の戦いがスタートした。

7月3日告示後恒例の地元新聞の序盤調査が1面を踊る。「打越やや先行」の見出しに多くの支援者の笑みがこぼれる。これが最も危険だと何度説いても、のど元過ぎれば必ず熱さ忘れるのが世の民だ。序盤調査はサンプル数が少ない上、参院選は我が国の選挙で最も期間が長いので惑わされて緩んだ側、危機感でしまった側との差が格段に結果に響く。この事を街頭でいくら唱えても聴衆の緩んだ口もとは元には戻らない。

私のもとには様々な期日前出口調査の数字が届く。選挙に行く前の人に聞く世論調査より、投票後の人に聞く出口調査ははるかに正確性が高い。打越さんは前半負けていた。それも全国で11程度の野党有力選挙区では全て野党が勝っているのに新潟だけ負けているのだ。

それでも選挙最終週には出口の数字も好転し、私も勝利は間違いないと信じて迎えた投開票日。10時18分のバンザイからの開票模様は表紙で記した通り。選挙を概観すると元々劣勢だった打越候補が選挙本番以降、中盤で追いつき、突き放そうとしたが最終盤に差し込まれる。投票日当日の得票では僅差で負けたが、期日前の僅かな貯金で逃げ切ったとみるのが妥当であろう。

他の1人区でも同様な戦いぶりで福島、栃木など最後にひっくり返された選挙区が5つ程度あった。これらと比較すると新潟の勝利の大きさが分かる。そして新潟3区の111票差の価値も身に染みるのである。選挙はしぶとく執念深くどんなことをしても勝たなくては意味がない。まざまざと知らしめられた選挙戦であった。



急遽、予算委員会委員長の安住淳さんも応援に！

	打越（立憲）	中村（自民）	平井（参政）	原田（N国）
1区	84,386	75.749	42,149	3,682
2区	96,413	86,807	47,376	3,689
3区	87,380	87,269	40,801	3,097
4区	85,079	90,512	39,809	3,156
5区	85,334	87,830	37,651	2,980
合計	438,592	428,167	207,786	16,604



7/14 阿賀町スタンディング



7/19 新発田市スタンディング

かなり複雑政局パズル
- 今後を読み解く -

参院選を概括すると「自公大敗」「国民・参政躍進」「立憲・れいわ伸び悩み」「維新・共産微減」と言ったところか。更に要約すると「参院与党過半数割れ」「参政党など多極化進む」。この結果を受け、当面の政局を予測してみる。



自民党両院議員懇談会

先ずは自民党、石破総理の進退は。執筆中の現在、石破総理は進退について続投の意思を示し、党内は石破おろしが燎原の火の如く拡がる。それとは裏腹に国民世論は存外石破続投支持が多い。とは言え現時点では石破総理は参院選総括、日米関税交渉の道筋が見えれば退陣はやむを得ないとみる。8月末が一区切りだろう。

では次の総裁は。高市早苗氏が手を挙げるのはほぼ間違いない。加えて小林鷹之氏も上げるのでは。二人ともタカ派が故に対立軸からリベラル側の候補も出馬するはずだ。河野太郎氏の名は上がるだろうが前回総裁選の結果が芳しくなく出馬は困難か。そうなると小泉進次郎氏、林芳正氏の二人が有力となる。両氏とも出馬できれば良いという存在ではなく、勝機あっての出馬となろう。国民人気なら小泉氏、政権運営の安定感なら林氏に軍配が上がる。この他前回総裁選に出馬した茂木氏、加藤氏、上川氏は総裁になるには決定打にかけ、また勝機なく出馬と言うのも困難かと思う。

さて、結論は。自民党議員が早期の解散を望むなら小泉氏、暫くの政権維持を考えるなら林氏か。高市氏はどちらの観点からも自民党議員の過半数からの支持は得にくいのではなかろうか。皆様に通信が届くお盆前でもまだ予測がつかない状況であろう。

では自民党総裁が決まった後の首班指名（衆議院での総理選挙）はどうなるのか。野党側の動きを予測してみる。当然野党第1党の立憲民主党は野田首班を目指す。そして同時に各野党に首班名はさておき、野党政権樹立の打診を測るべきである。その輪が拡がれど野田首班が困難な場合、私は玉木雄一郎国民民主党代表首班も大きな選択肢と考える。一般論でも大は小に退くべしである事と、第1党が第3党を担ぐとなれば第2党である維新が検討せざるを得ないだろう。与党寄りの前執行部と与党対峙の現執行部の溝が浮き彫りになるかも知れない。共産党などを考えると玉木首班で与党を数で上回る事は容易ではない。しかし、昨年の野党第3党までがそれぞれの代表名を書いた首班指名に比べれば、はるかな進歩と言えるし今後の野党連携は見違えるほど深まるはずだ。

「解散権＝貧乏くじ」理論と言った、次回の解散は野党で迎えるべし論もあり内実は複雑。そうなれば自民党政権による不安定政局の中期化も予想される。勿論その路線の中には石破総理続投と言う可能性もない訳でない。連立の組み増しはかなり困難な選択肢だが、可能性が最も高いのは維新であろう。立憲はまず無い。逆に小泉首班又は高市首班で即解散というジェットコースター展開も有り得るのだ。秋から年末、ともすれば年越えと少数与党である限り、熱い熱い政局は続く。